

日本維新の会の安浪順一です。

会派を代表しまして、議案第 29 号に対する賛成討論を行います。

尼崎市立幼稚園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する案について、これまで3年保育の実施、開園時刻及び閉園時刻の延長改善を求める声が多くありました。

この度の改正により、市立幼稚園での教育時間が延びたことは大変有意義なものであります。

ただし、長洲幼稚園、竹谷幼稚園、小園幼稚園を廃園することに対して、陳情者及び多くの市民から強く反対する声があり、陳情番号第1号に対しては3,886人、第2号は2,956人

合計、6,842人の署名人数を集めたとお聞きしています。

また、特別な支援が必要な幼児を近隣の私立幼稚園に受け入れてくれるのか、廃園により近隣に公立幼稚園がなくなるため選択肢が狭くなり、通うにしても3Km近い市立幼稚園に毎日の通園は心身ともに負担が大きいものとなり、ましてや支援が必要な幼児を通園させるには想像を超える不安と負担をかけることが新たな課題となり解決しなければなりません。

その課題は大きく 3 つあり、私立幼稚園が支援の必要な幼児を受け入れやすい環境、安定した雇用を行うための人件費等の補助制度。

経済的な理由により私立幼稚園に通わせることが難しい、市立幼稚園の教育を受

けさせたいため通わせたいご家庭に対して通園しやすい環境の整備、継続予定の6園の内 3 年保育を計画していない2園について、3歳児の待機児童解消のため見直しをしていただきたいことが課題として残っています。

近年少子化が驚くほど加速したとともに、限られた人口の中、自治体同士で人の取り合いが始まっています。子育てにやさしい自治体に住みたいのはもちろんですが、その財政能力が永遠に持続できるのか疑問に感じます。

そうしたなかで、3年保育の推進、効果的なインクルーシブ教育の推進を行わなければならない時代に到達しております。

限られた財政の中で、老若男女が安全で安心できる政策を選択しなければならないのが我々政治家の仕事になります。

一步間違えば、市民が離れていく尼崎。無理をすれば財政破綻を招きかねない尼崎へと転落していきます。

持続できる政策を的確に判断し、改善点を見出しながら進化させていくべく苦渋の選択により賛成します。

1530文字 想定時間 5分